

被災地の今を見つめ

人の心に寄り添える人になりたい

私はこの7年間、実行委員会に入り被災地を応援する活動だけでなく、たくさんの方を学べました。入った当初はただ、「力になりたい」その気持ちだけでした。しかし、被災者の方や先生、先輩たちから被災地の話を聞く機会を頂くにつれて、自分は人の心に寄り添える人になりたい、そんな力を付けたいと思うようになっていきました。委員会ではたくさんの方との交流や、普段テレビや新聞では分らないお話や、貴重な体験をたくさんさせてもらえました。委員会は私の考え方を作ってくれた場所でした。先輩たちには、これからも人に勇気を与える笑顔を絶やさず、ゆるく、愛ある応援をして欲しいと思います。7年間お世話になりました。有難うございました。2017年度実行委員長 清水聖

来月で7年、避難者7万5206人

避難先 47 都道府県 1052 市区町村・京都 455 人、滋賀 181 人

被災者の避難数は震災当時の推定 47 万人から見れば減ってきているとはいえ、今も多くの被災者が故郷に帰ることができず、全国各地での生活を余儀なくされている。仮設住宅や民間賃貸住宅に暮らす人が5万5340人、親族や知人宅に身を寄せている人が1万9596人、病院などが270人であると、1月30日復興庁が発表した。

仮設住宅の劣悪さを目の当たりに見聞してきた実行委員会としては、この数に心痛む。

7年を経て身元判明

石巻市、私立日和幼稚園では、

あの日、園児を帰宅させようとして出発したバスが津波に巻き込まれて、園児5人と職員6人が犠牲となった。3日後に発見された遺体の確認ができず7年近くが過ぎ、ようやく犠牲になった職員の一人であることが1月30日に判明し、遺族の基に遺体が引き渡された。

2月3日には、陸前高田湾内で昨年12月発見された遺骨の身元が判明した。

行方不明者2550人超す

7年を迎えようとしている今も家族を探し続けている人びとがいる。

遺体すら見つからず、あの日が今も続いている人々が大勢いることも忘れてはならない。

